

1. 事業の名称

子ども達誰もが未来に夢や希望を持てるようにしようプロジェクト

2. 事業の目的

小・中学校における不登校児童生徒数が10年以上連続増加を続け、多様な学びの場を創ることが求められておりますが、町内では『教育支援センター、中間教室』等の設置が無く課題となっていました。

また10代の自殺者が依然として多く、心のケアが求められておりますが、中学校卒業後の子どもの状況把握、支援体制が取れていないことも課題でした。

そのため小中学校児童生徒、中学校卒業後の子ども及び家庭に支援を行い、子どもが未来に夢や希望を持ち、家庭でも安心してそれを見守ることが出来るよう体制作りを行うことを目的に、この事業に取り組みました。

3. 実施方法

(1) 町中間教室設置運営

新規に町内の放課後児童クラブ施設内に中間教室を設置し、平日午前中運営を行いました。

中学校卒業後も高校生活等に支障があれば通えるように対象者は概ね未成年者とし、前年度中学校卒業生に広報をしました。

週1回運動の日を設け心身共に健康に過ごせるよう図ったほか、行事として公園での運動遊び、農業体験、おやつ作り、お楽しみ会などを行い、様々な体験をとおして異年齢の子ども達と楽しみ、心に潤いが持てるよう働きかけました。(行事開催年間14回)

また日頃オンラインにより保護者や子どもと連絡を取り合ったほか家庭訪問も行い、信頼関係を築くよう努めました。

随時保護者と中間教室支援員及び教育委員会学校教育指導員と面談を行い、保護者の願いを受け止め、より良い支援が出来るよう図りました。

(2) 学校内中間教室運営

教室に足が向きにくい子どもへの支援として学校内中間教室を運営し、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的な生活習慣の改善等のための支援を行いました。(小学校2校は継続、中学校1校は新規)

(3) 連携体制の構築

町教育委員会、多世代相談センター(町福祉部局)、小中学校と連携し、関係者会議を持ち情報交換、支援方法について協議をするほか、随時連絡を取り合い、多方面から連携して保護者、子どもへの支援に取り組みました。

4. 実施状況（写真による）

(1) 関係者会議



(2) 行事

7
/
4
野菜収穫



11/21 りんご狩り



12/19 お楽しみ会



2/2 豆まき



5. 事業の効果

学校生活に馴染みにくい子どもの個々のニーズに応じた多様な学びの場が求められる中、学校内と町内両方に中間教室を設けたことで、学びの場の選択肢が広がり、より柔軟に過ごせるようになりました。

中間教室支援員、教育委員会学校教育指導員を中心に、家庭、学校、多世代相談センター（福祉部局）と綿密に連絡を取り合う事により、意識を同じくして支援にあたる事が出来たと思います。

学習以外の取り組みとして、週1回の運動や季節に応じ施設内や外に出掛けて様々な体験活動を行ったため、心身の健康が図られ、子どもの生活に彩りを添えられたと感じます。

家から出られない子どもにはオンラインや家庭訪問で交流を行い、外に目が向くきっかけ作りが出来たのではないのでしょうか。

課題として、フリースクールとの連携、SNSによる相談体制の充実及び中学校卒業後の子どもへの支援があげられます。

小中学生の中に町内外のフリースクールに通う子どもが数名おりますが、年数回様子を見に行く以外は連携は進まず、もっと綿密な状況把握、子どもの支援に関する情報交換が必要だと感じております。

SNSによる相談は、誰にも知られず気兼ねなく出来る良さがあります。また10代の自殺が依然として多い中、中学校卒業後も育った町の機関とつながり、居場所を作ることは効果的だと思いますが、前年度の中学校卒業生に広報をした以外は具体的な取り組みが出来なかったため、今後支援体制を作れるよう引き続き取り組みたいと思います。

更に現在の場所では午前中しか運営出来ませんが、午後利用したいというニーズに答えるため、違う施設に移転し、運営時間を延ばしたいと考えております。

◇保護者からの感想より

- ・学校以外の場所という選択肢が、本人にとっては行ってみようという気持ちに少しずつ変化しているようです。前向きに少しずつ通室できるといいなと思います。
- ・居場所としてとても大事な役割を果たしていると思います。特定の人のための場所ではなく、小中学生なら誰でも利用できる当たり前にある場所になったら良いなと思います。また親が送迎しなくても通えるように複数の拠点が出来たらなお良いと思います。
- ・体を動かすことを、とても楽しみにしています。お楽しみ会も楽しんで行っています。引き続き同じように利用していきたいと思っています。